

令和7年度 墨田区立小梅小学校 学校経営方針

墨田区立小梅小学校

校長 増渕 裕美

1 目指す学校像

小梅小学校に関わる人にとって「魅力ある学校」を創造する

～ 子供たち一人一人が輝き、「夢」や「希望」がもてる学校へ ～

伝統を大切にし、笑顔と感謝があふれる小梅小へ



学校の教育目標の達成に向けて教職員が一丸となって、日々、組織的・計画的に展開する教育活動に、「人の心をひきつけるものがある」学校

◇児童にとっての魅力：自らの成長を実感できたとき

◇教師にとっての魅力：児童の成長に手ごたえを感じたとき

◇保護者にとっての魅力：児童の望ましい変容を見ることができたとき

◇地域にとっての魅力：地域と学校との結びつきを実感できたとき

学校は子供たちが認められ、自分に自信をもち、明日への「夢」と「希望」を育む所でなければならない。自分の居場所があり、勉強もよく分かる、先生が好き、友達が好きで、生きる喜び、学ぶ喜びを子供たちが全身で味わえるような学校を目指す

子供が輝く学校は、教職員にとっても充実感に満たされ、教職への使命感がいっそう発揮される学校となる。子供たちが育つことに喜びを感じ、自信をもって職務を遂行できるプロの教職員集団を目指す

開校105周年記念事業の様々な行事で、子供が主役となり、笑顔と感謝があふれる1年間にする。「やってみよう」、「ありがとう」を合い言葉に！

2 教育目標（本校がめざす児童像）

児童一人一人が知性・感性・道徳心・体力を身に付け、人間性豊かに成長することを願い、

○思いやりのある子

◎深く考える子

○たくましい子

の育成に向けた教育を行う

- ①自分を大切にし、友達のよさを認め、相手の気持ちを考えて行動しようとする態度を育てる
- ②意欲をもって自らが学び、地道に努力し、自分の考えを高めようとする態度を育てる
- ③心身ともに健康で、最後まで粘り強く取り組む態度を育てる

3 指導の重点

【1】確かな学力の定着と向上

○「分かる」、「できる」、「楽しい」つまり「学びがい」のある授業を実践する。

学年間での交換授業の実施

○校内研究を中心に「個別最適な学び」、「協働的な学び」の視点に立ち「主体的な学び」ができる授業改善を行う。学びに向かう力や思考力・判断力・表現力を育てる。

○ICT 機器を効果的に活用した学習の充実、授業改善（GIGA スクール構想）

○繰り返し学習を行い学習内容の定着を図る。

（インプットとアウトプットを意識した学習）

（朝学習・放課後学習の充実、振り返り月間の活用）

○日常的な取組

・「小梅学習スタンダード7」の共通理解・定着

・学習したことを振り返り、ノートに自分の考えを記述する習慣化

・自学の習慣化（朝学習・家庭学習・読書の習慣化）を図る工夫

・書くこと・読むことの習慣化

（校長講話作文・俳句づくり・読書感想文・様々なジャンルの文、グラフを読みこなす）

【2】豊かな心を育成する

○いじめや偏見、差別をなくそうとする意識と態度の育成

・「いじめ防止教育プログラム」、「小梅いじめ防止基本方針」を基に、集団ルール
の遵守、いじめは絶対に許さない指導の徹底（危険行為・いじめへの毅然とした態度）

・教育心理検査（アイチェック）・いじめアンケートを活用した、いじめ等の未然防止、
早期発見・早期対応

・特別支援コーディネーターを中心に、SC・特別支援教室の巡回教員と専門員と心理士
との連携をとり、特別支援教育の充実を図る

○規範意識を醸成する（主体的に判断し行動しようとする態度）

○児童の自尊感情や自己肯定感を醸成する

・寄り添う・励ます・支える・認める・褒める

・たてわり班活動の充実

○道徳教育の充実

・「よりよく生きる力」を育てる授業実践（年1回は授業観察に入れる）

・多様な他者との相互理解

【3】体を鍛え、健康に生活する力を培う

○日常的な取組

- ・「**体力向上タイム**」、「**1学級1取組**」等を通して、運動量確保のための計画的実施（体を動かすこと、運動が楽しいと思える内容の提供・実施）
- ・体を動かす習慣化（学校と家庭との連携）
- ・基本的な生活習慣の確立（早寝・早起き・朝ご飯）
- ・「**自分の命は自分で守る**」意識の徹底と防災教育の実施
- ・未然防止のための「**一声指導**」は、朝の会・帰りの会で随時行う（安全教育プログラムの活用）
- ・**耐える心・我慢する心**の育成「もう無理」と思ったところから「もう1歩・もう1回」頑張れる体と心づくり
- ・ケガの防止教育（危険の予測や回避の方法）

【4】安心・安全な教育環境づくり

- 「**学校の新しい生活様式**」の徹底と主体的に取り組む態度の育成（できないではなく、できるように工夫する 子供主体で考える）

○人権教育の徹底（人権教育プログラムの活用）

- 「**心の安定**」なくして「**生活の安定**」、「**学力の向上**」はない

4 地域に貢献すべき学校・教職員であることの自覚

○学校運営連絡協議会の意見を生かす

○教育活動の積極的な可視化【見えなければ伝わらない】

- ・保護者会、学校公開、学校行事等で意図や良さや思い伝える
- ・来校してよかったと思える工夫（授業内容・懇談内容・相談対応・掲示物等）
- ・各種便り、HP、SNS、正門の掲示板等による積極的な情報発信の工夫
- ・努力を認め讃える場の設定と、季節や学習内容に応じた掲示の充実

○「おもてなし」の気持ちが表れる対応をする

- ・来校者、保護者への挨拶は、率先して**元気2倍**で行う
- ・丁寧な電話対応（小梅小の誰か）、用件の確実な伝達（メモだけでなく声掛けも）
- ・スピーディー、誠実な対応を心掛ける

○地域の歴史・文化・人材等の教材化を図る

○地域・保護者と時間や思いを共有する

- ・PTA活動・地域等行事・おやじの会行事等に積極的な参加で、太く強い「つながり」を築くことを重視＝「共感・仲間」

5 組織力を生かす

○管理職⇄主幹⇄主任⇄教諭のラインを明確にし、全員体制で取り組む

- ・「**4つのぬ**」（挨拶・集まり・後片付け・安全）の徹底

特に重点課題は「挨拶」、「よい生活の習慣化」をめざし同一步調で徹底
元気なあいさつは教員から、子供たちへ、地域の人へ、来校者へ

○同僚性の重視・チーム学年 チーム専科の重視

- ・疑問なこと、困ったことが生じたとき、支援がほしいとき等、躊躇せずヘルプの声を

出す又それに気付く

○評価を生かす

- ・PDCA に基づき短いスパンでの分掌ごとの評価&学校評価（保護者・児童・学校運営連絡協議委員）を教育活動の改善につなげる

○教員の強みを生かす

- ・個々の教員の専門性、得意分野を生かし、OJT 研修で共有していく
- ・自ら学ぶ姿勢をもち続ける

6 服務に対する厳正な態度

◎服務事故防止

- ・公教育に携わる者としての自覚〈服務事故の代償の大きさを理解〉
- ・体罰・不適切な指導の根絶「プロの教育者としての冷静さ」
- ・個人情報の管理の徹底〈記録簿・テスト等の持ち出し・放置厳禁〉
- ・法令を遵守する公務員としての自覚をもつ

※整理整頓ができないのは甘えである：1日3回10秒整理から

※互いに、注意できる関係を築く

※「自分は事故を起こさない！」という過信・「これくらいなら大丈夫！」という安易な認識は、危険である

事故発生時には、ためらうことなく、即時報告！

7 働き方改革（できること、身近なことから校務改善）

- ・ライフ・ワークバランスの実現に向けた意識改革
- ・学年専科主任が時間コントロールを（定時退勤日を週1回）
- ・月に1回、会議を設定せず、教材研究や児童への対応に専念できる日を設定
- ・教員の勤務残業時間 **月45時間以内**（振り返りそして改善）

※教職員が健康でなければよい教育はできない。教職員の健康管理やメンタルヘルスについては管理職だけでなく、お互いに相談できる学校の雰囲気を作ることが大切である。

明るく元気で爽やかに毎日を送れる、小梅小学校の**教師集団**であり続けたい

1. 45分の授業を毎時間大切に、今日を充実して生きる**今日師**
2. 児童の心に寄り添い、思いを受け止め心を開き、気持ちを通じ合わせられる**響師**
3. 毎日の児童の成長を、地域・保護者と共に喜び、共に歩み続ける**共師**
4. 教育公務員として信念をもち、責任ある行動をとり、高く強い志をもった**強師**
5. 学校運営を常に自己の課題としてとらえ、組織で力を合わせられる**協師**
6. 1日1日の指導を振り返り、確実に自己を高め努力をし児童の手本となれる**鏡師**
7. 児童・保護者・地域住民から尊敬され慕われる**教師**